

2024年10月11日 第3487回例会

於： 横須賀商工会議所



<点鐘・開会> 12:30 高橋 会長

<斉 唱> 「我等の生業」

<ゲスト紹介> *横須賀ローターアクトクラブ会員/横須賀市議会議員

竹岡 力 様

<ビジター紹介> *地区ポリオプラス委員会 副委員長 (平塚北ロータリークラブ)

根岸 君代 様

*横須賀北ロータリークラブ

会長: 佐々木 佑倫 様 幹事: 高田 源太 様

*三浦ロータリークラブ 会長: 長島 満理子 様 幹事: 笠 小友和 様

*横須賀西ロータリークラブ

会長: 桐ヶ谷 主税 様 副幹事: 芝崎 暁 様

堀川 将史 様

*横須賀南西ロータリークラブ

会長: 宮本 清志 様 幹事: 金子 信博 様

<新会員入会式> *神下 満治 会員

<会長報告> *ガバナー事務所から

・インターアクト年次大会登録のお願いについて

テーマ: みんなで世界を平和に! ~人と人との繋がりを持って戦地や被災地で苦しむ人々を助けていこう!

日時: 11月23日(土・祝) 9:30受付開始 10:00~16:00 (予定)

場所: 湘南学園中学校高等学校

小田急鵜沼海岸駅から徒歩8分、江ノ電鵜沼駅から徒歩8分

・2027~2028年度ガバナー・ノミネー選出の件について

・2027~2028年度ガバナー・ノミネー候補者提案に関する告知について

<幹事報告> *例会終了後 第1グループ会長・幹事会 開催 (302研修室)

<出席報告> *出席委員会 角井副委員長より10月11日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
116名	104名	69名(5名)	35名	5名	70.48%

メイクアップ: 小佐野、岡田(英)、北村 各会員 地区大会出席

兼城、鈴木(孝) 両会員 理事会出席

<ニコニコ報告>

・根岸 君代 様 (平塚北RC) 久しぶりに横須賀RCに出席させていただきます。高橋会長、本日はよろしくお願ひ致します。

・横須賀北RC 会長佐々木佑倫様、幹事高田源太様 本日は宜しくお願ひいたします。

・三浦RC 会長長島満理子様、笠小友和様 本日よりお願ひします。

・横須賀西RC 会長桐ヶ谷主税様 本日は第1グループ会長・幹事会に来ました。よろしくお願ひ致します。

・横須賀西RC 堀川将史様 横須賀西RCより参りました。横須賀RCさんはいつも勉強になりますので今回も参加させていただきました。有難うございます。皆様も是非西RCへお越し下さい!

・横須賀南西RC 会長宮本清志様、幹事金子信博様 本日はよろしくお願ひします。横須賀ローターアクトクラブ/市会議員 竹岡様卓話よろしくお願ひします。

・三 役 横須賀ローターアクトクラブ会員/横須賀市会議員 竹岡 力様、本日はようこそお越し

くださいました。卓話よろしくお願ひします。

- ・大石、田中、岡田、木村、児玉、小林(-)、永井、八巻、梁井、吉田、小澤、濱田、秋葉、竹株、田邊、萩原、新倉、江口、鈴木、佐久間、澤田、前田、谷上、林、松本、瀬戸、三堀、八木、鈴木、物井 各会員

横須賀ローターアクトクラブ会員/横須賀市議会議員 竹岡 力様、ようこそお越しくださいました。目まぐるしく変化する社会と教育の卓話を大変楽しみにしておりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

- ・大野、椿、八巻、濱田、田邊、齋藤、新倉、齋藤、飯塚、八木、小沢、長尾 各会員

地区ポリオプラス委員会副委員長 平塚北RC根岸君代様、横須賀北RC 会長佐々木佑倫様、幹事 高田源太様、三浦RC 会長長島満理子様、幹事笠小友和様、横須賀西RC 会長桐ヶ谷主税様、副幹事 柴崎 暁様、堀川将史様、横須賀南西RC 会長宮本清志様、幹事金子信博様、ようこそお越しくださいました。例会をお楽しみください。

- ・岡田、小沢、小平、小林、萩原 各会員 誕生月祝いとして

- ・角井、物井 両会員 入会月祝いとして

- ・三 役 神下満治会員ご入会おめでとうございます。ロータリーライフをお楽しみください。

- ・八巻、梶木、濱田、寺田、権田、荻山、杉浦、澤田、三井、吉田、川名、比護 各会員

神下満治会員入会おめでとうございます。共にロータリーライフを楽しみましょう。

- ・神下 会員 本日入会させていただきます神下です。これから宜しくお願ひ致します。

- ・加藤 会員 10/18, 10/19にYRPオープンイノベーションデーを開催します。特に10/19は通研で子ども向けワークショップを行います。加藤もいますのでお越しください。

- ・石田、角井、柴田、小山 各会員 50年ぶりの大快挙！卓球アジア選手権 女子団体優勝おめでとうございます！！

<卓 話>

社会の変化に応じた教育のアップデート

横須賀ローターアクトクラブ会員
横須賀市議会議員
竹岡 力 様

こんにちは、ただいまご紹介いただきました横須賀ローターアクトクラブそして横須賀市議会議員をしております竹岡力です。横須賀ローターアクトクラブの活動報告以外で、こうして皆さまの前でお話しをさせて頂くのは初めてとなります。まず本日はこのような貴重な機会を頂き本当にありがとうございます。本日は、社会の変化に応じた教育のアップデートということで、私が議員になる前に所属しておりました教育関

係の民間企業で見てきた学校現場の現状、それから今こうして市議会議員として横須賀市内の学校教育に関する課題を議員の目として感じている事、そのあたりをお話できればと思っております。

簡単な自己紹介ですが、2015年にローターアクトに入会し、今年でちょうど10年目になります。日頃から本当にロータリアンの皆さまにはたくさんご指導を頂き、少しは成長して今こうして社会人になることができいております。2017年の就職活動の時にはローターアクトクラブでの経験を話し、ご縁あってベネッセコーポレーションという民間の教育関係の企業に就職できました。そこでは主に高校を担当し、



全国の学校を回ってそれぞれの学校に応じた課題の解決策をご提案していました。また、ベネッセという会社が持っている教材や模擬試験の営業などが担当で、特に北海道地域をメインに担当していました。私は郡部の地域も担当していたのですが、本当に人口が減少していました。今は横須賀も人口が減少していますが更にその上をいく状況で、一つの町に小学校、中学校、高校がそれぞれ1校ずつしかないような地域を担当し、人口が減り子どもが減った時に日本の教育はどうなるのかという大きな課題を強く感じるようになりました。

これからの人口減少社会で子ども達にどれだけ良い教育を提供できるかについて毎日ディスカッションしました。その中でふと横須賀に目を向けた時、横須賀もまさに今子どもの数が減っていてこの先どうなるのだろう、この街の教育課題を解決したい、そういう思いが徐々に強くなってきました。2019年になりますが、横須賀に帰ってきて統一地方選挙に立候補し、おかげさまで当選しました。現在2期目ですが、議会の中では毎回教育に関するテーマを取り上げるようにしています。トピックをいくつかご紹介します。

まず皆さんと共有したい数字があります。「千葉県流山市」は今人口が増え続けている町で、「子育てするなら流山」というキャッチコピーでここ数年人口が激増し、学校がパンク状態です。流山市のある小学校は、令和5年の1年生が308人、全校生徒が1,759人、クラス数が51クラスという全国最多のマンモス校で、教室が足りずプレハブを建ててなんとか対応している状況です。そんな学校が全国にあります。これに対し、ある自治体の小学校Aでは、令和5年の2年生が1人、全校生徒32人、クラス数5クラス、つまり小学校ですが6クラスない状態です。この小学校Aがある自治体、どんな街をイメージされますか？実はこの小学校は横須賀の走水小学校です。横須賀では今年20才になる子どもの数が4,000人、昨年生まれた子どもの数が1,800人、つまりこの20年で子どもの数は半分以下になっているのですが、まだ1,800人いますので郡部に比べたらまだ一定数の子どもはいるかもしれませんが、市内の地域による差がかなり出てきていて、走水小学校が横須賀では最も子どもの数が少ない小学校です。まさに少子化待ったなしという中でどんな課題が出てくるかといいますと、横須賀市の場合、小中学校の子ども数のピークが昭和56年から61年ぐらいの時期と言われていています。ここで申し上げたいのは、このピークの頃から子どもの数は減り続けて6割減ったのですが、学校の数はほぼ一定です。数校だけ廃校になりましたが、今まだ46校あり、走水に代表されるように地域によって子どもの減り方にかなり差が出ています。走水小学校は来年度に馬堀小との統合が、田浦小学校は長浦小との統合が決まっています。学校の子どもの数が減ると何が課題か、まず普段の授業をイメージしていただきたいのですが、主要科目5教科はまだ何とかできるかもしれませんが、例えば体育の授業、球技をやろうといっても2年生1人ですからサッカーチームが組めません。全校生徒32人ですから、みんな合わせればなんとかチーム対抗戦ができるかな、というぐらいですね。音楽の授業でも合唱活動が学習指導要領にありますが、これも一学年数人の状態でどうやって合唱するのかということになってしまうわけです。よく少人数学級が良いとの話がありますが、私自身の持論は少人数学級を作れる環境と少人数学級しか作れない環境は大きく違うということです。先ほどの流山市のように爆発しすぎも良くないですが、常に子どもの数が少ない中でクラス替えもなく、例えばいじめが起こる保護者同士のト

ラブルが起こった時に、その子たちの関係が小学校1年生から中学校3年生までずっと続く、それがいかに子どもたちにマイナスの影響を及ぼすかということをお考え頂ければ、これから先「学校の統合」は避けて通れない道だと思っています。一定規模の数を維持していくことで、子どもたちが良い環境で教育を受けることの方が私は優先だと思っています。来年度2校統合するのですが、来年度からは桜小、汐入小、逸見小、沢山小の4校をどうするかという議論がちょうど始まろうとしています。

少子化だけではなく多様性の時代だと言われるようになりましたが、教室の中でどんなことが起きているのでしょうか。例えば35人学級の場合、平均で割合を見ていくと、経済的な理由で本も十分に買い与えられていない家庭が29.8%。不登校、学校に通えていないお子さんが12.8%。発達障害を抱えているお子さんが7.7%、ギフテッド、いわゆる天才児が2.3%、家で日本語をあまり話さない子ども2.9%、これは横須賀では割合がぐっと上がります。つまり、日本国籍ではない子どもが当たり前前にクラスの中にいるということです。残った数が一般に“普通”と言われている子どもで、44.5%で15人、つまり35人学級で考えたときに、今私が挙げた項目に該当しない子どもは半分以下ということです。公教育ですから、どうしても先生は平均的な子どもに学習進度を合わせて授業をします。ありとあらゆる多様性の時代になってきた時に、平均に合わせていくと結果的に半分以上の子にはマッチしないという時代になっているということです。横須賀は不登校の数が非常に顕著で、直近の統計例では不登校が1,075人います。割合では全国や神奈川の平均よりも高いです。一概にこれが理由だとは言えませんが、少なくとも横須賀は不登校の数が相対的に多いという点が、学校現場の先生たちが苦しんでいる点になります。普段、学校を訪問すると机がどこか空いている状態が当たり前です。不登校生がいないクラスはありません。学校に通えない、あるいは通わないという選択をしている子ども達が増えているという事です。そうすると、先生は一体どう対応したらいいのか、授業をどのスピードに合わせれば良いかがわからない。学校に来ない子どもたちのケアもしなければいけない。このように教員の多忙化という大きな課題もあります。

昨年、私が議会で提案したのが、学びの多様化学校と言われている不登校の子どもの実態に配慮した特別な教育を行う学校の設置です。これはどんな学校なのかというと、いわゆる学習指導要領に縛られず、それぞれの学校でそれぞれの学校の裁量で授業進度を変えたり、教科横断的な学習をしたり、そして何より少人数学級で一クラス10人くらい、つまり先生が必ず見切れる数としてクラスを作っていくことを実践していく学校です。文科省は全国で300校の設置を掲げていますが現状まだ30校です。その設置をぜひ横須賀でも、と今議会で議論しているところです。そして次に挙げたのが教育のICT化です。元来、学校、特に公立の学校ですと、チョーク&トークなどと言われていますが、先生が一方向的に教科書に沿って自分の話をした後、黒板に何かを書いて授業を進行していくのがこれまでの日本の教育のスタンダードでした。ところが社会に出ると、パソコンで仕事をするのが当たり前の時代。ペンで文字を書くよりもタイピングすることの方が日常の仕事では求められている中で令和になっても学校の授業をICT化、情報化してこなかったという背景があります。教育現場である学校でICTの利活用をしている割合を世界で見たとき、実は日本は、コロナ前の数字ですがOECD諸国の中では最下位でした。海外に目を向けると、もちろんペンも使うのですが、資料を写したり、教科書を読むというよりは足りない情報について資料を視覚的に示したり、数学であれば図形を立体的に見せたり、動画学習を取り入れてみたり、当たり前子どもたちが飽きないようにいろんな工夫をしています。あるいは海外ではディスカッションの授業で子どもと子どもと向き合っているのです。日本のように35人がみんな前を向いて一斉に授業を受けるというスタイルよりは、大学のゼミのようなスタイルで、小学校も中学校も当たり前子どもが何か言い合っている様子が見受けられます。そうした授業スタイルに変えていくことも、まだまだ日本では遅れています。

皆さんご記憶にあるかと思いますが、コロナの到来とともに全国で一斉休校という事態がありました。これは今までの日本ではなかったことですが、学校が一斉にお休みになったその時にみんな慌てたのです。子どもが学校に来ないのにどうやって授業をしようか。そこで求められたのがまさにパソコンであり、タブレットです。端末を使って授業をしていく方法に変えていこうと、ようやく国が本気になってパソコン購入補助を国庫から出して、それぞれの自治体に負担をかけずに子どもたち一人に一台のパソコンが配られる時代がようやくやってきたというのが現在地です。ただパソコンを使った授業はなかなか学校現場に浸透しきれていないところで、今までの教科書を使った紙ベースの授業スタイルからの転換が進んでいません。パソコンを使った授業では様々なメリットがあります。これまでの黒板を使ったみんな一斉に同じようにやるというスタイルではなく、それぞれの子どものレベルに応じてパソコン上で問題を出す。AIにより、難

しい問題を出したり、その逆もしかりで、中学校1年生だけど、小学校の掛け算、割り算ができていないと分かっていたら遡って小学校の問題まで戻るなど、自分なりにそれぞれのスピードに合わせて学習を進めることもできますし、あるいは子どもたちが自分の考えをパソコンに打ち込むこともできます。35人がどんなことを考えているのかということわざわざみんなに発言しなくても、先生の画面上で見ることができる。そしてそれをクラス一斉に共有することもできます。そして先ほど不登校の話をしましたけれども、これが当たり前になってきますと必ずしも同じ空間にいなくても同じ学習ができるのではないかと、と言われるようになってきました。学校に足を伸ばすこともできないという子が横須賀でも今1,000人います。例えば、クラスの様子を一部でも動画に撮っておいて、それを後日見られるようにしておけば学校に行かなくても、前の日にどんな授業をやっていたのかを自宅のパソコンから見ることもできますし、リアル中継であればまさにこのZoom画面のようにこの場にいなくても参加できる。発言もできるし質問もできる。そういう環境がテクノロジーの力を使えば当たり前になるようになってきています。ただ、課題は教員が使いこなせていないということです。若い先生は使いこなせていますが、(年齢だけではありませんが)ベテランでこれまでのやり方を踏襲してきている先生にとってはなかなか難しい部分もあり、これも学校によって、教科によって、先生によって差が出てきてしまっていることも一つの課題として挙げられるかと思えます。

今日は3点、今の学校現場の課題として挙げられていることをご紹介します。子どもの数は、この先減っていきます。それは人口統計ではっきりしていることです。横須賀は、それが全国的なスピードよりも早い。そうした中で、地域の反対があって今まで進められなかった学校の統廃合をもっとやっていかなければいけない。もちろん感情としては学校をなくすのは難しいですが、子どもたちのことを考えたら必要になってきます。そして多様化、いろんな子どもがクラスにいる時代です。障害を持ったお子さんには、特別支援級という障害を持った子ども専用クラスもあるのですが、そこを切り分けていくと結局は社会に出た時お互いに接し方がわからない、あるいはお互いに理解が進まない、共生社会と言われている中でそれが本当にいいのかと、今、国連からも日本は指摘を受けている最中で、これからはフルインクルーシブとあって、個性を持ったいろんな特徴を持った子たちが当たり前になり35人の中にそれぞれいるという環境の中で教育も進行していかなければいけない。テクノロジーの時代、この例会もオンラインを使っているように、学校現場もそうした環境が当たり前にならなければいけない。社会に出た時に、子どもたちが「タイピングができません」では社会では通用しないわけですから、それも当たり前の環境にしていくということ。

そして本日紹介しきれなかったのが教員の多忙化です。とにかく先生方が忙しい。今までになかったことをやらなければいけないし、学習指導も高度化してきています。金融教育が家庭科で求められる時代です。小学校でも英語が教科になっています。小学校の教員免許を30年前に取った先生は、まさか自分が英語を教えるとは思っていなかったわけですがやらなければいけない。そして保護者が権限を持った時代になってきました。それを排除することがなかなか難しい地域への対応、家庭への対応もしなければいけない。ありとあらゆることが結局は教員に求められてしまっているということも改善していかなければいけないと思っています。必ずしも全て教員がやらなければならないかということ、私はそうではないと思っています。地域を見渡せば、色々な職業の人、色々な特性を持ち、色々な強みを持った人がいる中で、そういった人の力をどんどん学校教育の中に取り入れていくことが私は必要ではないかと思っています。まさに多様化の時代、変化が激しい時代、こうした中で教育自体がアップデートしていかなければこれから先の日本を担っていく若い子どもたちは成長していきません。社会に応じたアップデートということで、民間企業の経験、そして今地方議員2期の経験から私が感じていることを本日はお伝えさせていただきました。

今度、教育委員会の方も卓話をする機会があるということで、おそらく私が見ている視点とは違うかと思っています。それぞれの視点のどちらがいいのかではなく、どんな組み合わせができるのか、ぜひ皆さんとこれからの横須賀の子どもたちの成長を一緒に育んでいきたいと思っています。

本日は大変貴重な機会ありがとうございました。ご清聴ありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 高橋 会長

週報担当 寺田 義則